

特定非営利活動法人  
マナー教育サポート協会 会報誌

## 第25号

# マナーは愛



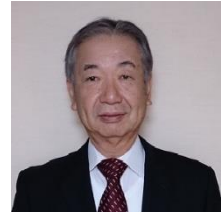
### <目次>

- |                           |              |        |
|---------------------------|--------------|--------|
| ■ 釣果の宅急便                  | 理事/相談役 三浦 和昌 | (P 1)  |
| ■ 特別企画インタビュー<br>市村自然塾 関東様 | 大徳 はるみ/島崎和子  | (P 2)  |
| ■ 丸の内キッズジャンボリー            | 業務サポート部      | (P 6)  |
| ■ 感動リレーエッセイ④              | 湯浅 智子        | (P 9)  |
| ■ 花天の会 第10回「青葉の集い」        | 大竹 菜穂子       | (P 11) |
| ■ 認定講師の誕生                 | 第12・13期生     | (P 13) |
| ■ 伝統的工芸品                  | 業務サポート部      | (P 18) |
| ■ 活動報告及び予定                | 事務局・各事業部長    | (P 20) |
| ■ 正会員様と賛助会員様ご紹介           | 事務局          | (P 22) |
| ■ 会員募集のご案内 運営体制 お問い合わせ    | 事務局          | (P 23) |

## 釣果の宅急便

理事/相談役 三浦 和昌

平成 17 年に東京から広島へ帰り、早や 11 年が経過しました。広島に帰ってからは協会の仕事にも参加出来ず心苦しい限りです。しかし協会は皆様の努力で着実に発展しています。今後も初心を忘れず、現実合った活動を宜しく願います。



私の生まれは、山口県の錦帯橋が架けられている錦川の中流くらいにある山間部です。家の前が川でしたから、川釣りは子供の頃から親しんでいました。本格的に海釣りを始めたのは会社に入ってからで、先輩に誘われて夜釣りから始めました。この先輩に言われたのが「釣った魚の調理を奥様へ頼むな」でした。そのため、釣り道具一式以外に包丁を 3 本（出刃包丁大小 2 本、刺身包丁 1 本）買わされました。以来、釣って来た魚の捌きは全て私がやっています。先輩の言うことを聞かなければ、違った結果になっているかも知れません。

さて、釣りの方は若い時より体力も落ちて来たので、最近は船釣りのみにしています。釣魚はメバル、鰻、鯛、ハマチ、ヒラメなどは瀬戸内海で釣っていますが、イカだけは日本海まで釣行しています。メバルや鰻、イカは良い時は沢山、釣れることがあります。これを全部、捌くのは大変なので隣近所に貰って頂くのですが、これもあの家の奥様は調理できるかな、あの家は旦那さんが調理するかな、あの家は魚好きだけど調理できないな、など家の事情に合わせて持って行く方法を変える必要があります。根底には日頃からのお付き合いの中で相手の状況を知って置く必要があることです。さもないと、良いと思ってやったことが悪くなり、悪いと思って止めたことが悪くなったりします。困みに向こう三軒両隣が近所付き合いと昔から言われているようですが、我が家のケースでは「向こうの一軒」を除いて喜んで頂いています。

イカは出雲大社の沖の方まで釣りに行っています。良く釣れる時には 100 杯くらいも釣れることがあります。そのまま持ち帰るのだけでは芸がないので、船上で沖漬けを作っています。釣上げて生きているイカを醤油・みりん・酒を混ぜた液に漬けて作ります。イカが液を吸い込むので体全体に味が浸み込んで、酒飲みの方には好評を頂いています。この沖漬けの美味しさと、生のイカの味を遠方に届けられないかと始めたのが、宅急便で送ることです。幸いイカは冷凍に強く、余り味が落ちないので送ることには向いているのですが、やはり受取った方が調理できるかが一番、心配ですので、事前の情報が一番大切になります。「本当に望んでおられるか」、「調理はできるか」、「配送日は在宅か」などで何時も妻と論争していますが、美味しいものは共有すべきで押し切っています。美味しさに個人差があるのが難題ですが、何を送っても許して貰える発送人でありたいと思っています。釣上げた直接の喜び以上に、知人や関係者に喜んで貰える方が望外の喜びです。

（「最高デース。」 カーブのヒーローインタビューの決まり文句）

（株式会社 NTT データ中国 取締役）

特別企画インタビュー

**特定非営利活動法人  
市村自然塾 関東 様**

市村自然塾 関東様は、「生きる力を大地から学ぶ」を基本理念に、農作業を中心とした自然体験活動と、年齢の異なる仲間との共同生活を通じて、子どもたちの心身の健全な育成・成長を図る活動を続けて、今年で15年目になります。一連の活動に対し、文部科学省が行う平成25年度「青少年の体験活動推進企業表彰」において、最高の文部科学大臣賞が授与されました。



塾頭 高津戸良太様（左から2番目）

2008年よりプログラムの中に「マナー講座」が導入されてから当協会にご縁をいただき、現在、理事長 岩下宣子と講師養成事業部 岩下美和子が担当させていただいております。

今回は、市村自然塾 関東様の4代目塾頭 高津戸良太様にお話を伺いました。

**設立**

市村自然塾は、(株)リコー及び三愛グループの創業者である市村清の生誕100周年記念事業として、当時のリコー会長・浜田広の指揮のもと、次代を担う青少年を育成するため、リコー社会貢献活動の一環として設立した特定非営利活動法人（NPO法人）です。

2002年に市村自然塾 関東を神奈川県に開塾し、その1年後に九州の佐賀県も開塾しました。九州の市村自然塾は、コカ・コーラウエスト(株)にも支援いただいております。



**市村自然塾の基本理念**

**「生きる力を大地から学ぶ」**

自然の力を借りながら、自らの汗を流し、共に考え、知恵を働かせ、自らが成長する

**大切にしている、「3つの心と2つの力」**

◆ 「3つの心」

〔自然を慈しむ心〕〔相手を思いやる心〕〔社会の一員として社会の基本的なルールを守る心〕

◆ 「2つの力」

＜自分のことは自分でやる力＞ ＜安全・危険を知る力＞

**実践している、4つの「…ない」4無**

◆ 「指示しすぎない」「命令しすぎない」「教えすぎない」「世話をやきすぎない」

## 活動内容と活動体制

神奈川県足柄上郡松田町寄（やどりき）：市村自然塾 関東は、丹沢山系の山々と美しい水源林に囲まれた里山にあります。



ここに集まって、2泊3日を1回として3月から11月までを18回に分けて各テーマを設定した通年活動をしていきます。男女別に2週間おきに金曜日の夕食から日曜日の昼食まで農作業と共同生活を送ります。参加対象は、小学4年生から中学2年生の男女各28名。合宿しながら、7名のチームごとの生活と全体での活動を体験します。

運営費はリコーの社会貢献活動費や関連グループ会社の会費に支えられているため、参加・活動費用は無料ですが、交通費などの実費は各自でご負担いただきます。

東京と神奈川からの参加が多く、埼玉・千葉・静岡などからも来られます。

子どもたちの生活や活動の世話をするスタッフは職員9名の他、サポーターとして農業指導・看護師・調理師（栄養士）など5名、プラス外部ボランティアの方々が協力くださっています。

## 共同農園（土曜）と チーム農園（日曜）

子どもたちが、土作りから始めて、種を蒔き、苗を植えて、育て、収穫まで行います。

共同農園は、みんなで力を合わせて自分たちの食べる野菜を作る農園のことです。1,400坪の土地に、食材にするための野菜を栽培して、自給自足率95%、年間通して約30種類の野菜を作ります。



特に力を入れているゴボウ作りは、4月に深さが1mを超える大きな穴を掘って、掘った土をすぐに戻してから、ふかふかの土にゴボウの種を蒔きます。そして約6か月後、秋の収穫は植えた時と同様に深く掘り返しますが、太くて長いゴボウを傷つけないよう慎重に掘り進めなければなりません。野菜を育てる事の苦勞、驚き、喜びが、ゴボウの収穫は印象を残すようです。

チーム農園は、チームごとに何でも自由に作ってよい農園です。共同農園で体験して学んだことを基に、トマト、茄子、キュウリ、メロン、スイカ、ひょうたん、しかくまめなど、変わったものを作ります。自分たちで収穫したものを活動中に食べたりお土産として持ち帰ったりします。

子どもたちは帰る前にお助けシートをスタッフに渡します。スタッフは2週間の間、お願いされたことだけを世話します。世話をしすぎるとうまく育つため手助けはしません。失敗もしますが、どうして出来なかったのかを考えてもらうのです。指示しすぎない、命令しすぎない、教えすぎない、世話をやきすぎない、子どもの自主性を伸ばすためです。

## その他の活動やイベント

夜は、チーム農園の計画作りやチームワークを形成するためのことや、リーダー・サブリーダーが集まって会議を開いたりします。

合宿中の洗濯は自分で行き、掃除や食事の補助は当番制にして、自分たちの生活のことを協力してやります。

農作業以外にも、マナー講座、地域のボランティア清掃活動、近くの山へハイキングや川遊び、夜のホタル観察や星座観察などをして自然の素晴らしさを感じてもらいます。秋には栗拾いも行っており、子どもたちは栗の渋抜きも大好きです。



また、味噌作りやコロッケ作り、お茶積み、麦畑で育てた国産麦でうどんやパンを作ったり、もち米を育てて収穫した後に脱穀精米して収穫祭の時に餅つきをするなど、一連の作業を体験するようにしています。



夏休みの親子合宿には、親や家族が100人くらい参加されて自然塾の生活を共に体験します。夜は、子どもたちが庭にテントを張って寝て、女性は塾生室、男性が食堂に寝ます。翌朝お父様に竹の木を切ってもらい桶作り、育てた小麦粉で作ったそうめんを流しそうめんをしたりします。

## 入塾して卒塾するまでの変化

畑作業をすると、やらない子が出てきます。我々はやらせることが目的ですが、やらない子にやりにさいとは言いません。共同作業の中で自分はどうすべきかを自身で知ってもらう仕組みにしています。また、1人の作業は、やっているか否かがわからないので、責任あるポジションを担当させるなどの工夫をしたチーム制を導入すると成果も出てきます。

子どもたちは確実に成長していきます。4回ごとに、自分を知るために自分の評価表を書く、振り返りをやってもらっています。最初は高く自己評価します。どうしてかという、最初は自分しか見ていないので比較がないからなのです。しかし、周りを見てわかってくると一旦評価が下がります。でもまた上がってきます。スタッフの評価は少しずつ上がっていくのですが、これは毎年色々なやり方をしても、同じようなカーブを描きます。

スタッフも毎回塾が終わった後に28人分の振り返りをやっています。その中で情報を共有して、今後どうしていくかと、いろいろと仕掛けていきます。

最近、発達障害の子が増えてきましたが、実は、ここを作った時の想定の中にはすでに入っていて、将来はそういう子どもたちも育てようと、創設者である浜田の中にはありました。入塾していただいて、この大自然の中で共同生活を体験して、強靱性が生まれてきたらと思います。



## 大地の会（卒塾生が集うOB・OG会）

卒塾後の交流を保ち、互いに切磋琢磨を続ける場となることを願い発足した大地の会は、700人を超える卒塾生となりました。常に様々な活動も手伝ってくれます。

卒塾生の呼びかけで立ちあげられた「OB農園」で色々な野菜を作り、外に向けて活動を広げて行こうとしています。たとえば子ども食堂などに食材を提供しようという話も出ています。



彼らが社会貢献活動を体験して成長して、企業とは違う方向の活動によって、将来の日本を荷なっていくような人たちになってくれればと思います。

### ※子ども食堂

日本の子どもの6人に1人が貧困状態にある（2012年厚生労働省子どもの相対的貧困率）。経済的な事情などにより、家庭で十分な食事がとれなかったり、独りで夕食をとっていたりする子どもたちに、無料もしくは安価で食事や居場所を提供する民間の活動のことで

## 最後に

自然の中に身を置くことで、作る難しさや自然の脅威、危険、安全だとかを実感する。そこで、人を思いやる心や、自然を慈しむ心が生まれてくるのではないか。身近な農作物を育てて、収穫の喜びと採ったものを自分でいただくこと。また、共同生活の楽しさと大変さ、仲間の大切さと集団の力のすごさということ、身を持って感じてくれたらと思います。子どもたちに色々な体験を通じて学んでほしいと思います。

子どもの時に体験した記憶は残るはずで、将来の基本として、自然の力を借りながら、次代を牽引していくリーダーを育て、社会に送りだしていきたいです。

## 市村自然塾 創始者 株式会社リコー 前・会長 浜田 広 の塾生心得

### 1.食事のこと

出されたものをすべて、良く噛んでいただくこと。  
市村自然塾には食べ物の対する「好き嫌い」という言葉はない。  
身体に良い食べ物は「多種類」ということ。

### 2.作業（日常の動作）のこと

あらゆる動作を、気持ち（心）を込めて、きちんと丁寧にやること。  
常に目でしっかりそこを見て、いいかげんに乱雑にやらないこと。

### 3.最大の美德は「親切」である

人間は「頭」と「心」と「体」の3つでできている。  
この市村自然塾では「心」と「体」の健康増進を担当する。

### 4.お陰様で・・・

日本には昔から挨拶の時に「お陰様で…」という素晴らしい言葉がある。  
いいことがあった時、常に「感謝の心」を忘れない。



# 丸の内キッズジャンボリー 2016 IN 東京国際フォーラム

8.16(火)・17(水)・18(木)

東京国際フォーラムの夏休み恒例、子どもたちへ未来の夢を育む、参加体験型イベント「丸の内キッズジャンボリー2016」に、約11万2千人（延べ人数）の皆様がご来場されました。

マナー教育サポート協会は、8回連続で出展することができました。私たちのワークショップは、「お箸マスターになろう！できるってかっこいい」をテーマに、食事のマナーと正しいお箸使いを楽しく覚えていただきました。

各回の定員は24名で、1日3回を3日間行い、合計216名のキッズが来場しました。参加されたのは小学生の子どもさんたちで、保護者の方はご見学をお願いしました。

紅白の旗を使ってクイズ・お箸の使い方・ビーズひろいゲーム・ジャンボかるたにチャレンジ！ マスターした全員に修了証を差し上げ、夏休みの自由研究にもなるお土産と、やってはいけないお箸使いをイラストで表現したランチョンマットをお持ち帰りいただきました。

今年も、株式会社峠喜重朗商店様・吉井商事様より、特別に仕立てた子どもサイズの割り箸をご提供いただきました。

皆様からのご支援を心より感謝いたします。

当協会の活動に、ご賛同いただける企業や団体の皆様、ご支援をどうかよろしくお願い申し上げます。

\*\*\*\*\*





## <保護者へアンケート>

- ぶだんの生活に役立つマナーが子どもに良く伝わり、大変ためになった。
- 子どもだけでなく、親も知らなかったことが多く、とても勉強になった。
- 話に耳を傾けたり、体を動かしたり、メリハリのある時間配分に子どもたちも飽きずに参加できた。
- 楽しい遊びやゲームを通して、たくさん学べて参加して良かった。
- こんなに丁寧にマナーを教えていただけるイベントは初めて！
- スタッフの方が優しくサポートしてくれたので、低学年でも勉強になったと思う。
- 終始子どもたちも笑顔で良かった。スタッフの方がさりげなくついてくれて、フォローして頂いたのが温かくて嬉しかった。
- 親が伝えなくてはいけない大切なことだと再認識した。
- 日頃、教えていても素直に聞かなくなってきたので、今回は良い機会になった。
- いつも注意していて、こういったマナーについて学ばせたかったので、参加できてよかった。
- やってはいけない箸使いは、なぜいけないのか理由も教えて頂き、親も勉強になった。なぜダメなのかを理解できたら覚えやすいと思う。
- お箸の持ち方の他、割り箸の割り方、箸置きから箸を持つ時、戻す時まで教えて頂いて親も勉強になった。家でさっそく実践したい！
- かるたで遊びながら、マナーを学べるのは良い。
- 子どもたちは、かるたが盛り上がっていて、とても楽しそうにやっていた。
- 子どもも、親も勉強になった。



## 感動リレーエッセイ ④

～ マナーとは、試してみようって思う魅力のたくさん詰まったもの ～

認定講師 湯浅 智子

ある中学校に伺った時のことです。中学2年生の「職場体験学習事前マナー研修」を終えて、最後にクラス代表の男子生徒からこんな感想をいただきました。



「マナーって堅苦しい、面倒なものだと思っていました。だから、正直、職場体験先に行くのも、楽しみだけど嫌だなとも思っていました。でも今日のマナー教室を受けて、少し考えが変りました。なんだか『僕の何かの記念日』になりそうです。

マナーとは、『相手を大切にしたいという心、自分たちの中にあるそういう気持ちを、思っているだけじゃなくて、接する人にちゃんと届くように、どう見せていくか、話して行くかを、頭と心をいっぱい使って考え伝えること。マナーには決まりごとがあるけれど、一つ一つにちゃんと意味がある。それがわかってくると、よし、**試してみようって思う魅力のたくさん詰まったものなのです**』と、湯浅先生に教わりました。

職場体験先では、ちゃんと名前を呼びかけながら挨拶してきます。なんだかワクワクしてきました。本当にありがとうございました」

もともと、担任の先生から、最後に講師の先生にお礼の言葉を述べるようにと指示があったことだったのですが……

教室を出ようとした時、「湯浅先生～『僕の何かの記念日になりそう』は、Bくんのオリジナルの言葉なんです。本当に、彼の中で何かが変わったんですね。私も、生徒たちの新たな一面が見られて良い時間になりました」と、担任の先生に呼びとめられました。

私自身、まだまだ修業中で、満足のいく研修ができていないわけではありません。なんとか伝えたいという思いで臨む研修は、毎回慣れることなく必死です。

だからこそ、こんなキラキラした言葉をいただけただけで最高に嬉しいし、何より自分への応援歌になりました。

「職場体験学習事前マナー研修」では、基本的なマナーの心と形に加え、私は次のことを伝えています。



### ① 出来ることを増やしていく

マナーは、皆さんの未来に繋がっている。その未来に繋がる第一歩として、学んだ形を、体験先で確かめる事ができるって素敵なことだと思う。だから、これを試したいって思うものを探しながら聴いてほしいな。そうすれば、何かしら必ず覚えている。少なくとも全部は忘れない。「これ試したいって思える事を探してね」。

### ② 今の3年生からのバトンを受け取り、そして後輩に渡すという義務

すべて完璧にできなくても、やってみた！という経験ができるのは、職場体験先を探してくれた先生と、バトンを渡してくれた先輩がいるから。皆さんにはそのバトンを受け取り、そして次の2年生に渡すという義務がある。「果たした経験は14歳のプライドになるはず」。

岩下理事長から、様々な場面でマナーの教えを頂いてきました。その中でも次の言葉は、20年経った今も忘れず、私が実践している事の一つです。

「できるだけ早くお相手の名前を覚えて、次にお会いした時には、名前を呼びかけながら挨拶しましょう。世の中にはいろんな人がいて、すぐに返事をしてくれない人もいるかもしれないけれど、自分の名前を呼びかけられて、挨拶されて、嫌だと思う人はいないですよ」。

14歳の子どもたちの心にもちゃんと届いています。



次は、最近ますます素敵さを増している 梅本 久美子さんに バトンタッチ！

## 花天の会

### 第10回 「青葉の集い」

～ 須坂の田中本家博物館を訪ねて ～

花天の会会員 大竹 奈穂子

今年の青葉の集いは、6月12日（日）～13日（月）1泊2日で、長野県須坂町にある「豪商の館 田中本家博物館」を訪ねて参りました。

田中本家は江戸中期に初代新八が、穀物、煙草、酒造業などの商売を始め、代々須坂藩の御用達を務めるとともに、大地主へと成長、藩の財政に関わる重責も果たし、その財力は北信濃屈指、殿様が密かにお金を借りに来るほどの豪商であったと言われていいます。

3,000坪ある大きな敷地は古い土塀に囲まれていて、お屋敷の中には客殿や主家などの建物の他に見事な庭園や土蔵など、当時の面影がそのまま残り、また代々の日常生活に使われた貴重な品々が良好な状態で数多く残されています。

またこの日は、超人気で予約のとりづらい秘湯の宿と言われる「仙仁温泉 岩の湯」に泊まることができました。名物の洞窟風呂や、地元の食材をふんだんに使った料理が素晴らしく、隅々まで行き届いたおもてなしの心のなんともいえない心地よさに癒されました。



旅館にて



参加の皆さん

当日は、岩下理事長一行 10 名が JR 長野駅に集合、さらに長野電鉄に乗り換えて須坂駅で下車しました。昔懐かしい 5 人乗りタクシー 2 台に分乗し、田中本家を目指しました。

田中館長始め、田中家副当主が出迎えて下さる中、まずは田中本家に伝わる江戸時代の古文書の記録をもとに、おもてなし料理を再現した三段重ねの御膳を頂きました。見た目も美しいお料理の数々に思わず歓声、手入れの行き届いた中庭を眺めながら、ゆったりと味わいました。丁度この時期、特別展「高円宮家の根付けコレクション」が展示されており、



2 日前には久子妃殿下もお出でになられたとのこと。私たちも同じ席に座り、同じお庭の景色を眺められながら妃殿下も召し上がられた御膳を頂き、大変に感慨深いものがありました。

その後、若き田中館長に「展示館」をご案内頂き、田中本家 280 年の歴史の中での貴重な生活道具類、衣裳、漆器、陶磁器、玩具、文書などの品々、そして特別展の根付けコレクションを拝見しました。根付けとは江戸時代からの男性のファッションの一つで煙草などの小物を携帯するのに帯の間に挟むお洒落な留め道具のことなのですが、一つ一つに芸術的な細工が施され、またそれぞれに物語と一種の「捻り」が秘められて、観る者には細密な細工への感動と、そのユーモラスな表情に思わずため息をもらします。また、殿下から妃殿下のお誕生日に贈られた作品や、お二人のお嬢様への贈り物などには、家族の大切な歴史の中でのその時々思い出がこめられており、思わず胸が熱くなりました。妃殿下のご趣味である写真も展示され、自然を背景に置かれた根付けが写真の中から今にも動き出しそうな、また何かを語りかけてきそうな不思議な想いとらわれました。

次に、手入れの行き届いた「池泉廻遊式庭園庭」をご案内頂きながら、かつて 20 もあった土蔵にまつわる話や収蔵品の出し入れには大変に神経を使われることなど、ざっくばらんなお話を伺いました。

伝統や古いものを尊び、大切に丁寧に次世代に残し伝えてゆくことは沢山のひとと労力の賜物ではありますが、「近世の正倉院」といわれる田中本家の存在そのものが歴史的、文化的な遺産として大変に貴重であることを深く感じた素晴らしい研修の旅でありました。



豪商の館 田中本家 博物館

## 協会認定マナー講師誕生

### 皆様 おめでとうございます

平成28年6月に第12期生に、10月に第13期生に認定証が授与され、新たに7名の「協会認定マナー講師」が誕生いたしました。

そこで、認定講師の方々に、講師養成講座受講の感想をご寄稿いただきました。

皆さまの更なるご活躍をお祈りいたします。

そして、これからもご縁がありますようにと願っています。



## 第12期生



〈認定証を授与された方〉

長島 佳美・水倉 直美・寺村 真由美・山下 みどり

中野 英行・原田 さとみ

\*敬称略

## マナーは愛 思いやり 相手を大切に思う心

認定講師 山下 みどり

形だけではない、マナーの本質について考える力を持つことの大切さ、このことをより多くの人に伝えて参ります。教育とは共育とも言えます。教えることを通して共に育っていくことだと思います。自分の人生に活かすだけでなく、人に伝えるためには、学び続ける気持ちを常に心に留めます。

私の心の中できらきらと輝き続ける「マナーは愛」という宝物、この「きらきら」が次の世代に繋がるように、多くの人々の心の中で輝くように努めます。



## 感謝の気持ちと共に…

認定講師 長島 佳美

開講式から認定試験まで、あっという間の1年半でございました。26年の秋、開講式会場入り口で岩下先生が温かい笑顔で迎えてくださったこと、今も鮮明に記憶に残っております。

講師養成講座で学んだことはここでは言い尽くせませんが、岩下先生をはじめ、諸先生方、協会の皆様、そして個性豊かで頼りになる同期の支えがあったからこそ、無事に認定証を頂くことが出来たのだと、改めて皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

マナーも時代とともに多様化してきておりますが、判断に迷った時には岩下先生の教え「マナーは愛」に立ち返り、マナーの大切さ・素晴らしさを身近なところからお伝えできれば・・・と考えております。認定証を頂いたことがゴールではなく、ここからスタートという気持ちで、これからもマナーの学びを深めるべく日々精進してまいります。どうぞ今後とも宜しくお願い申し上げます。



## マナー講師養成講座との出愛

認定講師 寺村 真由美

講座を受講する私のきっかけは、友人から岩下先生のお話を伺ったことでした。ある日突然名古屋から東京へ押しかけての出会いを懐かしく思い出します。この出会いで受講することを即決め、その時はこの先1年半は結構長いように思いましたが、終わってしまえばとても早く感じられ、あっという間でした。先生方だけでなく素晴らしい仲間にも出会えたことに感謝したいと思います。



マナー講座を終えて、一言でマナーと言っても大変奥が深いことに気づかされました。自分が恥をかかないためではなく、相手に恥をかかせないもの、相手に対する思いやりが大切である、マナーとは「愛」と教えて頂きました。自分自身にとってはとても大きな、意義深い内容です。

今後は出会う人、更には自分自身の生活がより豊かになるような講師を目指して、精一杯取り組んでいきたいと思っています。

## 出会いに感謝

認定講師 原田 さとみ

協会認定マナー講師の認定証を戴き、あらためてご指導いただきました先生方に御礼申し上げます。

岩下先生の許に、初めて通った日に感じた事。これから約2年間、難しい作法の勉強が始まるのだなと思っていると、“いいのよ、いいのよ、だ〜いじょうぶ・・・” エッ？大丈夫？・・・何だろう、この暖かい空気は、包むようなこの雰囲気は・・・直に解りました。



「マナーは愛」この言葉が琴線に響きました。

出会いとは不思議なものですね。マナー教育サポート協会とご縁をいただけたことで、私は優しくなれました。所作や作法を知ることで、人に優しく接することが出来るようになりました。マナーを学ぶことで、重たい鎧を脱ぐことが出来たのです。

自分が学んだ事を、地元四国で伝え広めていきたいと思っています。これからも、同期の仲間と学び続けて行こうと、気持ちを新たにいたしております。

感謝

## 「マナーは愛！」の世の中に！

認定講師 水倉 直美

あっという間の1年半でした。ご縁があって岩下先生のあるセミナーを受講させて頂きました。その研修で、先生のお人柄や講師としての素晴らしさに衝撃を受け、先生から日本文化・日本のマナーを学ばせて頂きたいと思い、関西から通いました。



これまで、マナーを知らないことを恥ずかしいと思いながらも、「難しいもの」「堅苦しいもの」として敬遠していました。ですがマナーとは、人をおもひ心「愛」からおこる行動であり、大枠の考え方・原理原則を理解すればそんなに難しいものではない、実践することで内面も磨かれ素敵な人になれる、ということをおこの講座で学びました。

いまは教えて頂いたマナーを少しずつですが実践し、人として成長することを意識して過ごしています。また、会社でも後輩たちに研修を行い、教えて頂いた「マナーは愛」を伝えています。これからももっと多くの人たちに「マナー」を伝え、お互いがお互いを大切にできる「愛」のあふれる世の中に！その一助を担えればと考えています。岩下先生をはじめ諸先生方、そして12期のみなさん、本当にお世話になりました。そして、これからもどうぞ宜しくお願い致します。

## 講師として

認定講師 中野 英行

「知るは楽しみなり」とおっしゃった方がいらっしゃいます。私自身も一過性の知識欲があり、知らないことがあると調べはするもののすぐに忘れてしまうという日々を過ごしております。



マナー教育サポート協会の講師養成講座を受講し、知識と実践(経験)を結び付けながら楽しく学ぶことができました。ここで学んだ知識と実践を忘れずに維持していくためにも、「知る」だけではなく「伝える」に変えていきたいと思っております。「伝えるは楽しみなり」「ともに考えるは楽しみなり」と自分ひとりの満足から、共有する事の満足へとつなげていきたいと思っております。日々の生活の中でさらに「知り」「伝え」「考える」、そんな風に成長していきたいと思っております。

岩下先生、理事のみなさま、各部ご担当のみなさま、本当にお世話になりました。今後ともよろしく願いいたします。

まだまだ学びの時は続きますが、一段落として…。ありがとうございました。

## 第13期生



＜認定証を授与された方＞

飯野 真梨子 \*敬称略

## 魅力的な女性って？

認定講師 飯野 真梨子

岩下先生との出逢いは地域の若者向け無料マナーセミナーでした。開演五分前に聴講生は私だけ。そこでスタッフが岩下先生にお詫びの言葉を。岩下先生は「来てくださって有難いです。」と笑顔で御返事をされていました。（もちろん開演直前には満席になりましたよ♪）相手への尊重の気持ちがずっと伝わり、ハートをとりこにされました。将来への不安が消えず、どこを目指せば正解かわからない中、周囲の人に対する思いやりを最優先にし、相手の立場に立って考える人はとっても魅力的だと思いました。



「上品の本質は、他人を気楽にし、他人と共に満足すること」（ラ・ブリュイエール）  
岩下先生をはじめ、目標とする方々との出逢いは私の道しるべになりました。  
学べば学ぶほど奥が深いマナー。今は日々の生活に落とし込み一歩一歩行動することを目標にしています。

ご縁を頂けたこと心より感謝致します。これからもご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 伝統的工芸品

### ～ 九谷焼【石川県】 ～

業務サポート部

九谷村で鉱山開発の最中に、磁器の原料となる陶石が発見されたことを機に、築窯しました。その地名にちなんで「九谷焼」と称し、陶磁器に上絵付けをした焼物の生産が始まりました。

九谷焼は、九谷五彩と呼ばれる色絵の具を使用して、絵画的、写實的に描かれたものが多く、時代と窯の移り変わりによって、作風が変わり変化に富んでいます。古九谷の発祥から約360年の歴史と、各時代に生み出された様々な絵付け模様や作風が、現在に受け継がれ続けていて、その時代に生きた人々の心を、絵付けで映し出しているような気がします。

#### 江戸時代のはじめ

1655年頃に加賀国江沼郡九谷村（現：石川県加賀市山中温泉九谷）において開窯したのが始まりです。この期の作と考えられるものを一般に古九谷（こくだに）と呼び、紺青、紫、黄、緑、赤の九谷五彩、青手と呼ばれる色彩が用いられました。

しかし、約50年で突然制作が終わったと伝えられています。古九谷に関しては、開始時期をはじめ、発展の経緯や廃窯の時期など、いまだ謎のようです。

#### 江戸時代の終わり

制作中止から、およそ100年後に復活、赤絵のスタイルが誕生しました。この時代に生まれた九谷焼を「再興九谷」と呼んでいます。以降、数多くの名窯が開かれては閉鎖を繰り返し、再興九谷はそれぞれの窯ごとに作風が確立されました。

#### 明治時代～昭和のはじめ

窯元の職人たちが作家として自立し、明治政府の産業復興により、九谷焼の輸出産業が盛んになった時期です。赤絵と金彩による精密な色絵付けを中心に、欧米向けの作品が数多く生産されました。

#### 昭和の終わり～現代

伝統的な美術工芸品としてのブランドを確立した九谷焼が、各時代の伝統的な色絵の技法に現代芸術を取り入れて制作されるようになりました。

時代が変われば人々の生活も変わります。生活が変われば、生活の中で使う物も変わります。新たなライフスタイルにあわせた多種多様なデザインの器は、日常を飾り生活を豊かにしてくれることでしょう。

### 上絵付け（本焼きした陶磁器の釉薬の上に、顔料で紋様を描き、再度焼く技法のこと）

**青手** 緑の色絵の具を多く配色して、絵付けされたスタイルです。青色といっても実際には緑色を呈しています。青手古九谷は赤色を全く使わないのが特徴です。素地の余白を殆んど余すことなく、器全体に色絵の具を塗る（塗り埋め）ことも、青手の特徴です。

**色絵（五彩手）** 九谷五彩と呼ばれる、緑、黄、紫、紺青、赤の色絵の具を絵付けされたスタイルです。5色の色絵の具を活用することから五彩手とも呼ばれます。

**赤絵（金襴手）** にじみにくい赤の色絵の具の特性を活かして、器全体に「細描」と呼ばれる細かい描き込みを施したスタイルです。赤絵の具の他に金の飾り付けで華やかに彩られた作品が多いことも、赤絵の特徴です。背景を赤で塗り埋めた器に、金で絵付けしたスタイルは、赤絵の中でも特に「金襴手」と呼ばれています。

#### 「赤絵細描」若手作家に伺いました

赤絵細描（あかえさいびょう）という赤絵の具一色を使って、細かく文様や人物を綿密に描く、九谷焼の伝統的な技法です。絵付けは、水の量で濃淡をつけることによって、様々な表現をすることができます。

毎日、8時間くらい絵付けをしているそうですが、「好きなことなので楽しい」といいます。古代柄と新しい柄を組み合わせ、オリジナルのデザインを考え、赤絵の魅力を現代に生かしています。「この赤が空間を少し華やかにしてくれる事を思いながら制作しています。飾っておくのではなく、使って欲しい」という若手作家、架谷庸子さんの作品は、繊細でレースの様な文様は美しく、うっとりするような感じがしました。文様により、お皿の厚さが違うように感じました。



架谷庸子さん

#### 陶器と磁器の違い

原料と製法によって「陶器」と「磁器」に分けられます。

**陶器** 「陶土」という粘土が主な原料です。叩いた時に出る音は、鈍く低い音がします。透明度は、ありません。光は透過しません。吸水性があります。

**磁器** 「陶石」という岩石を粉砕した粉が主な原料です。叩いた時に出る音は、金属質の澄んだ高い音がします。光を透き通します。吸水性は、あまりありません。

※見分けるには、高台が一番わかりやすい所です。

陶器は、土の色が出ていて、触るとざらざらしています。

磁器は、釉薬をかけてあり、触るとしっとりとなめらかです。

# 活動報告及び予定

## 活動結果報告（第14期上期：2016/4/1 - 2016/9/30）

### 【講師養成事業部】

- 4月 第15期生 初級コース開講
- 第14期生 中級コース開講
- 5月 第13期生 プロフェッショナルコース開講
- 6月 第12期生 認定証授与式  
※6名に「協会認定マナー講師」の認定証が授与されました
- 7月 第15期生 初級コース修了
- 7月 第14期生 中級コース修了
- 9月 第13期生 プロフェッショナルコース修了  
各コース勉強会と修了試験実施
- 第13期生 「協会認定マナー講師」資格試験実施

### 【研修事業部】

#### ◆中学校等を対象にした講演

- 4月 愛媛県 JFA アカデミー今治様（2回） 市村自然塾関東様（男子・女子）
- 5月 東京都 文京区立本郷台中学校様
- 静岡県 JFA アカデミー福島様（男子・女子）
- 6月 茨城県 土浦市立土浦第六中学校様
- 埼玉県 富士見市立西中学校様
- 千葉県 千葉市立椿森中学校様
- 東京都 葛飾区立東金町中学校様 練馬区立練馬東中学校様  
練馬区立練馬中学校様 世田谷区立世田谷中学校様  
星美学園中学校様 荒川区立第三中学校様 荒川区立第一中学校様  
葛飾区立中川中学校様
- 神奈川県 川崎市立中原中学校様
- 静岡県 JFA アカデミー福島様（女子）
- 7月 埼玉県 大宮アルディージャ様
- 東京都 練馬区立三原台中学校様 文京区立茗台中学校様  
荒川区立第五中学校様 文京区立第十中学校様  
文京区立第九中学校様 板橋区立志村第五中学校様
- 8月 東京都 足立区立花畑中学校様 足立区立第十一中学校様  
江東区立深川第四中学校様
- 静岡県 JFA アカデミー福島様（男子）
- 9月 茨城県 取手市立藤代中学校様
- 千葉県 千葉県立天羽高校様
- 東京都 文京区立第六中学校様 練馬区立光が丘第二中学校様  
大田区立矢口中学校様 江戸川区立小岩第四中学校様
- 大阪府 JFA アカデミー堺様

#### ◆大学生を対象にした講演

- 4月 埼玉県 東洋大学 川越キャンパス様

#### ◆ビジネスマナー

- 4月 海上商事株式会社様

#### ◆大人を対象にした講演

- 5月 千葉市美浜区少年軟式野球連盟様

#### ◆親子を対象にした講演

- 8月 三基商事株式会社 ミキプルーン代理店様（東京）

◆子ども向けイベント

8月12日(水)～14日(金)

東京国際フォーラム 丸の内キッズジャンボリー出展

「お箸マスターになろう！できるってかっこいい」食事のマナーと正しいお箸使い

【業務サポート部】

- ・伝統的工芸品の紹介
- ・会報誌の作成
- ・ホームページの維持管理

【花天の会(認定講師の会)】

6月 青葉の集い(第10回)

\*6月12日(日)～13日(月)

1日目 長野県、豪商の館 田中本家博物館

宿泊先 仙人温泉 岩の湯

2日目 小布施散策

9月 勉強会

演題 「ワインの講義を聞きながらワインの知識を増やそう」

講師 ワインソムリエ 碓本 修二 様 (Mr.STAMP' S ワインガーデンオーナー)

活動予定(第14期下期:2016/10/1 - 2017/3/31)

【講師養成事業部】

10月 第16期生 初級コース開校式・開講

第15期生 中級コース開講

第14期生 プロフェッショナルコース開講

第13期生 認定証授与式

\*初・中・プロコース修了2月予定

\*認定証授与式(第14期生)3月予定

【研修事業部】

◆中学校等を対象にした講演

10月 浦安市立入船中学校様 浦安市立高洲中学校様 中野区立緑野中学校様  
 千葉市立磯辺中学校様 千葉市立高浜中学校様 足立区立第十三中学校様  
 千葉市立小中台中学校様 JFA アカデミー今治様  
 JFA アカデミー福島様(男子)

11月 江東区立第二大島中学校様 三郷市立北中学校様  
 江東区立深川第五中学校様 足立区立千寿桜堤中学校様  
 江戸川区立西葛西中学校様 江戸川区立小岩第一中学校様  
 練馬区立光が丘第二中学校様 練馬区立豊玉第二中学校様  
 北区立明桜中学校様 新宿区立西新宿中学校様  
 目黒区立第十中学校様 江戸川区立篠崎第二中学校様  
 葛飾区立桜道中学校様 荒川区立第四中学校様  
 JFA アカデミー福島様(女子) 練馬区立中村中学校様

12月 中央区立銀座中学校様 葛飾区立水元中学校様 JFA アカデミー堺様

1月 江戸川区立鹿骨中学校様 江戸川区立南葛西第二中学校様

板橋区立志村第二中学校様 荒川区立諏訪台中学校様

2月 JFA アカデミー堺様

\*上記ほか、現在ご検討いただいている学校・企業がございます。

～ 今後も多くの方々のマナーの応援をしてみたいです ～

## ご支援いただいている皆様

- イーハウス・アーキ・コラボレーション様 (<http://www.e-house.gr.jp/>)
- 株式会社NSGコーポレーション様 (<http://nsg-corp.net/>)
- NTTコムウェア株式会社様 (<http://www.nttcom.co.jp/>)
- 株式会社NTTデータ様 (<http://www.nttdata.co.jp/>)
- レストランおまかせ亭様 (<http://www.omakasety.com/>)
- 海上商事株式会社様 (<http://www.kaijoshoji.co.jp/>)
- 菊地道子税理士事務所様
- 興南プレス工業株式会社様 (<http://www.tcn-catv.ne.jp/~kounan-press>)
- コメスタ・ドーム株式会社様 (<http://comestadome.jp/>)
- 株式会社スリーライト様 (<http://www.threelight.co.jp/>)
- 株式会社峠喜重朗商店様 (<http://www.to-ge.co.jp/>)
- 株式会社雄大様 (<http://www.udai.co.jp/>)
- 吉井商事様 (<http://www.yoshiishoji.com/company/>)
- NPO法人りすシステム様 (<http://www.seizenkeiyaku.org/HP/home.html>)

(五十音順)

相津美幸 荒井美智子 有岡啓太 伊藤賢二 伊藤康子 稲垣綾 今村光子  
 岩下宣子 岩下美和子 岩下義弘 梅津稔 梅本久美子 大竹奈穂子 大畑麻綾  
 大藪昌代 岡田愛子 岡部達昭 折原みよ子 香月泰 加藤恵子 加藤幸子  
 金子昭信 川岸秀子 岸田輝美 木ノ原誠司 忽那美江子 熊澤厚子 藏満勝子  
 畔柳恵美 古関裕美 小松俊一 金野裕子 佐々木恵美子 佐藤元昭 澤村晶子  
 重松照代 島崎和子 島田裕代 鈴木敏夫 鈴木初江 鈴木美和 大徳はるみ  
 高野和文 高橋清美 尋木浩司 田中昌子 田辺由香里 土田美子 都築サチ子  
 鳥山真美 長塩由美 根岸美紀 野田頭よし子 原田さとみ 原田なおみ  
 藤野勲 保木本清美 星野久子 前田美智子 松井直美 松井恵子 松尾祐子  
 松本桂樹 松本智子 三浦和昌 三浦順一郎 水倉直美 南節子 壬生実佳子  
 向山邦子 向山ひろ子 向山代志子 村上智美 村上直子 森下はるみ  
 湯浅智子 吉村景美 和田香代子 渡邊ひろみ

(五十音順、敬称略)

 Thank you

## 会員募集のご案内

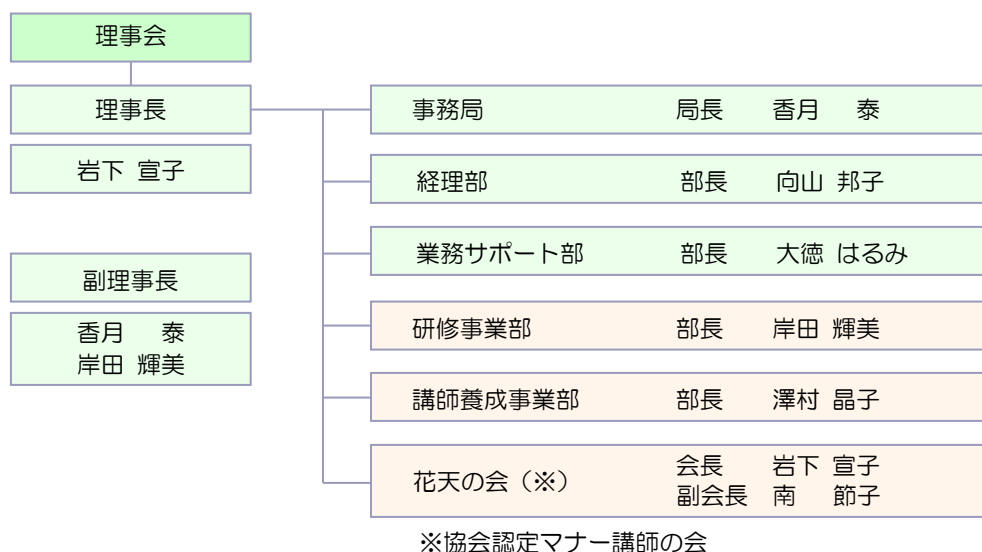
会員は、活動主旨に賛同し、支援して下さる個人または法人の皆様です。

年会費 正会員（個人） 5,000円  
 賛助会員（個人） 2,000円  
 賛助会員（法人） 1口 10,000円 より

私たちの活動にご理解を賜り、ご支援ご協力くださいますようお願いいたします。

## 運営体制

活動を円滑に進めるために次のような運営体制を設けております。



## お問い合わせ

特定非営利活動法人 マナー教育サポート協会  
 認証番号：15 生都協市特第 1585 号（平成 15 年 10 月 20 日 東京都）  
 所在地：〒103-0003 東京都中央区日本橋横山町 4-13 太田ビル2階  
 電話：03-3527-3925  
 F A X：03-3527-3935  
 メール：e-manners@eagle.ocn.ne.jp  
 ホームページ：http://www.e-manners.org

※不在の時もございます。ご用の際はご予約をお願いいたします。  
 メールをお送りいただければ助かります。

2016 年 12 月 5 日発行（年 2 回発行予定）  
 発行・編集・制作 特定非営利活動法人マナー教育サポート協会 印刷 株式会社雄大  
 Copyright© 2016 NPO Manners Support Association. All rights reserved.